



名工大柔道部 OB 会関西懇親会

2011 年 12 月 23 日 (祝・金) 15:00～
神戸の JR 甲南山手駅前セルバ内の
エイコーンスタジオ

予算：3000 円

参加者：12 名 (63 歳～86 歳)

M22 岡野大先輩(姫路から)

日本柔道界最高の指導者の一人

Y41 村井 部誌づくりに執念 (名古屋から)
E41 大場 広島県福山から、
D39 築瀬(旧姓 小笠原) 主将
中部地区 **はじめて二部で優勝**
M39 山本 副主将 ※会場のオーナー
K40 重松 マネージャー
D41 末利 会計
現在、日本技術士会副会長
B43 矢倉 主将、 経営者
この年一部に昇格、



M43 堀内 *** 経営者
D45 高原 この会の世話役
これからもよろしく！
A46 久野 主将
この年二部に降格
E46 佐能 ***

～19:30 解散

★素晴らしい1日でした！！



柔道を愛する人々の集合体が、我が名工大柔道部である。
我が部の目標は、柔道精神の体得と、人間的つながり「人の和」を追求することとしています。精神を体得するた

めに、勝つことを目標の二次的手段として、一にも二にも練習に打ち込み、個々の体力に合った進歩を達成できるように練習計画を立て、技と精神をその積み重ねにより体得し、より前進し、ある時は停滞して悩んで苦しんで柔道部を運営しています。同時に、部員間の相互信頼等の人間的つながりをその中ではぐくみ、部を大学生生活の拠所とし、ある時は苦しい場として、部活動が学生生活の中に大きな位置を占めるように望んでいます。

この目標は永年に渡る部の歴史により確立されたものである。部の歴史は、戦前をたどると定かではないが昭和初期には、すでに活動が始められ、戦後、G・H・Qによる武道禁止命令により消滅するまで続き、幾多の先輩が育つていった。戦後二十七年に先輩有志数名を中心に、現在も部長であられる簡井先生によって再建されました。その時に現在の部の組織の基が先輩諸士の意見、相談により決定された。部の組織の特徴としては、他の大学とは多少異なり、部活動は三年までとし、四年生は顧問的立場で助言するに止まり、三年生が中心となつて部を運営しているということなのです。

我部を築立つた先輩諸士は、実社会において着々と確たる位置を占めるに到り、現役部員の励みとなつています。先輩諸士との交流は、毎年発行している「心技」という部集により行なっており、そのつど御指導を願っている次第です。現在、部員数二十数名で、すべての大学に言えるように、漸減に苦しんでいます。部員には、大学に入り、初めて柔道を志す者が三分の一近くおり、その指導は難しき極みである点でもあり、我が部の一つの特色でもあります。しかし、初めて志ざした者も、卒業するまでには練習の厳しさ、人間的関係を克服して、少なからず柔道精神を身に付けて果立って行きました。この点に我が部は重きを置き、部長簡井先生、顧問又井先生との連絡を密にして、悩み苦しんで一步一步前進すべく主将を中心に部を運営して行こうと思つていきます。

昭和37年12月の二部優勝の記録 東海学柔連 20周年誌(1974)より

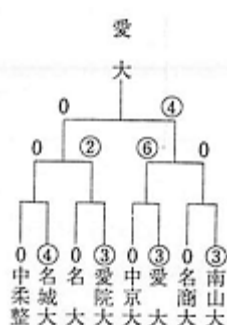
昭和37年度

加盟校

一部	二部
愛知学院大学 愛知大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 名城大学 中部柔整専門学校 (以上7校) (特別参加)	愛知学芸大学 岐阜大学 岐阜薬科大学 静岡工業大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 三重大学 三重県立大学 (以上8校)

一部
優勝 愛知大学
準優勝 愛知学院大学
第三位 南山大学
名城大学

一部トーナメント

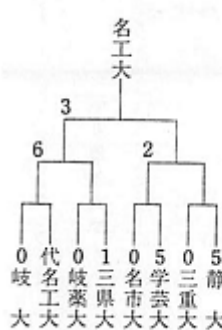


二部

第10回東海学生柔道冬季優勝大会
日時 昭和37年12月16日
場所 愛知県スポーツ会館

優勝 名古屋工業大学
準優勝 愛知学芸大学
第三位 静岡大学
県立三重大学

二部トーナメント



山本 泰三
小笠原 正
木村 孝夫
宮内 望月
二宮 望月
渡久 直樹
井戸 茂
赤井 夫
真弓 彦
雅彦



S38 度柔道部の陣容

前列左から望月主将、平岡副主将、真弓(S39 主将)

中列左から、末利、池田(S40 主将)、**、渡久山副主将



↓ 左手前は又井不二雄先生

↑ 開会式に入場



↓ トピックス、名工大はランキング7位に！

日刊ゲンダイ 111223

卒業生数の別に役員・管理職が多い大学

1位	一橋大
2位	小樽商科大
3位	大阪市立大
4位	滋賀大
5位	産業工大
6位	東洋大
7位	名古屋工大
8位	東洋大
9位	和歌山大
10位	横浜国立大
...	...
13位	京都大
...	...
15位	九州大
...	...
24位	中央大
...	...
26位	慶応大
...	...
33位	東工大

※注：この順位は、卒業生数の別に役員・管理職が多い大学をランキングしたものである。順位は、卒業生数の別に役員・管理職が多い大学をランキングしたものである。

わが子に無駄な時間を使わせない

就活勝利は近い

学閥企業外せば

「一流大以外の倍率は1.0倍以上」

2013年の就職戦線は、「タレントをしっかりと絞る」というのがキーワード。その結果、学閥企業への就職率が大幅に低下している。これは、企業側が「タレント」をしっかりと絞るためである。その結果、学閥企業への就職率が大幅に低下している。これは、企業側が「タレント」をしっかりと絞るためである。

「一流大以外の倍率は1.0倍以上」

2013年の就職戦線は、「タレントをしっかりと絞る」というのがキーワード。その結果、学閥企業への就職率が大幅に低下している。これは、企業側が「タレント」をしっかりと絞るためである。その結果、学閥企業への就職率が大幅に低下している。これは、企業側が「タレント」をしっかりと絞るためである。



岡野先輩（M22）にお目にかかったのは3年前の名古屋工業会兵庫支部の総会に始めて参加した時です。新日鉄広畑全盛時代の柔道部監督として、全日本で優勝を続けて来られました。

素晴らしい伝統を後輩たちに伝える場を持ちたいと、世話役の高原さん（D45）と相談して懇親会を開催できました。夏に名古屋地区での柔道部OB会で村井さん（Y41）から、部誌を発行できないかというお話を聞き、実現できるといいなあ、ということで動き出しました。

名古屋で井戸さん（K41）、浜本さん（B45）、川崎さん（C50）などが検討された結果、S39年から16号まで発行してきた柔道部誌(文集)「心技」をCDにまとめたものを送っていただいた。昭和29年からの活動記録「東海学柔連20年誌」は私たちをご指導いただいた又井不二雄先生が理事長として仕上げられた冊子もあります。

この二つの財産を再生させることができるといいなあ！と思いながら、パソコンでデータを再整理し、このたびの懇親会で、当時の思い出、その後の人生での経験を語り合いながら、至福の一日を過ごすことができました。

私たちの年代は2年上の吉村主将、2年下の真弓主将の間で、最強の二宮先輩を擁して初めて二部優勝を果たしました。その時「亀屋」で優勝カップに注いだ酒を飲んだのが、私の柔道人生で最高の思い出です。なんと村井さんがその時の写真を持ってきて下さったのです。

思い出話に火がつき、柔道の極意は「卵を手のひらでフアッと壊れないように握り、力を抜いて相手に対応する」との岡野先輩のことば。このことは他のスポーツでも仕事の生き様でも同じであると改めて気付かされました。肩肘を張らず、自然体で生きていくことの重要性を改めて思っています。

又井先生、吉村さん、真弓さんをはじめ親しい先輩、同輩、後輩が亡くなりましたが、我々が柔道、また人生を通じて得てきたこの気持ち、この伝統は後世に引き継がなければなりません。

同じ作るのなら、一般の図書として発行できるものに仕上げる可能性があります。この目標にチャレンジしてみたいと思います。各位のご協力をお願いいたします。

2011.12.23 懇親会会場で

↓エイコーンスタジオを経営する二人の息子と

↓本当にうれしそうに笑っています

